

# たぐすい

TAKUSUI  
No. 661

兵庫の漁業人のための情報誌

11  
November, 2011

発行 財兵庫県水産振興基金



天皇・皇后両陛下をお迎えしての第31回全国豊かな海づくり大会鳥取大会 (写真提供: JF全漁連)

## 「第31回 全国豊かな海づくり大会」開催 (鳥取県鳥取市)

Report **全国漁業者決起集会** ～軽油引取税免除恒久化の訴え～  
**但馬地区ズワイガニ漁解禁**  
**大輪田塾修了式ならびに入塾式** ～5期生5名が修了～

# 第31回 全国豊かな海づくり大会 「つくろうよ みんなが笑顔に なる海」

～天皇・皇后両陛下をお迎えして鳥取県で開催～

10月29日(土)、30日(日)の両日、鳥取県鳥取市において「第31回全国豊かな海づくり大会」が開催されました。今年のテーマは「つくろうよ みんなが笑顔に なる海 ～がんばろう日本 災害からの復興～」として、同県の豪雪被害や3月の東日本大震災からの復興をサブテーマとして、豊かな海づくりを推進するとともに、災害からの復興に向けて団結することが謳われた内容でした。

会場は、“とりぎん文化会館”や鳥取港西浜地区を中心として式典行事・海上歓迎・放流事業等が行われました。併せて鳥取県水産業を紹介した展示や、子ども向け体験イベント、ふれあい交流事業にも多くの市民が参加しました。

30日のとりぎん文化会館での式典は、天皇・皇后両陛下のご臨席のもと、鹿野 道彦農林水産大臣、佐藤正典水産庁長官のほか、全国から約1200人が参加して開催されました。初めに東日本大震災で被災した東北3県の水産高校生と境港総合技術高校の生徒が大



両陛下によるご放流風景(写真提供: JF全漁連)

会旗を持って入場し、JF鳥取 景山 一夫組合長の開会宣言で幕を開けました。式典では功績団体などの表彰があり、兵庫県からは、兵庫県イカナゴ漁業調整協議会が資源管理型漁業部門の環境大臣賞を受賞し、代表してJF兵庫漁連 山田 隆義会長が受け取りました。

続く大会決議採択では、JF全漁連 服部 郁弘会長が「東日本大震災により未曾有の被害を受けたが、この大きな悲しみと苦難を乗り越え、一日も早い復興を

実現しなければならない。更にわが国の恵まれた水産資源を守り、豊饒の海という財産を、将来に引き継ぐ重要な責任がある。」と朗読され、満場の拍手をもって採択され、最後に、鳥取県 平井 伸治知事から次期開催県の沖縄県 仲井眞 弘多知事へ大会旗が引き継がれました。

海上歓迎・放流行事は場所を鳥取港西浜地区の特設会場に移し、海上歓迎はJF鳥取所属の小型底曳船や刺網漁船等が大漁旗を上げてパ



全国豊かな海づくり大会功績団体表彰の様子(写真提供: 水産経済新聞社)

レード、続いて放流行事では両陛下からヤマトシジミ・アラメ等を漁業後継者へお手渡しされたほか、ヒラメ・キジハタの稚魚をご放流されました。



山田会長が代表して表彰を受けられました（写真提供：水産経済新聞社）

## JF神戸市が MELジャパン流通加工段階認証取得 ～「シラス」では全国初の認証～

マリン・エコラベル・ジャパン（以下、MELジャパン）の審査機関である日本水産資源保護協会は、JF神戸市 山田 隆義組合長に対しシラス・イカナゴのMELジャパン流通加工段階認証証書を授与しました。

このMELジャパンが運用する「マリンエコラベル」制度は、水産資源の持続的利用、生態系の保全を図り、資源管理活動を行う漁業者を支援し、広く消費者等へ資源の持続的利用、生態系保全活動への参加を促進するもので、JF兵庫、JF神戸市で構成する「摂津船びき網漁業協議会」は”生産段階



認証証書を手に記念撮影 左から、日本水産資源保護協会 下村政雄専務、JF神戸市 山田隆義組合長、大日本水産会 小坂智規常務



認証”を平成23年5月に取得（拓水656号参照）しており、今回は”生産段階認証”を受けた漁業の漁獲物を加工・流通することで得られる“流通加工段階”で

の認証となりました。

認証式は10月7日（金）、JF神戸市にて行われ、日本水産資源保護協会 下村 政雄専務より認証の概要説明があり、続いて、下村専務よりJF神戸市 山田 隆義組合長へ認証証書が授与されました。

証書授与後には、山田組合長は「摂津船びき網漁業協議会所属の漁業者の皆さんが獲ったシラス・イカナゴを100%原料として、JF神戸市加工場で製造される商品はMELジャパンのロゴマークに恥じない商品とし、今後、販売強化を行っていくとともに、消費者へ持続的に地先の水産物を提供できるように努力する。」と決意表明を行いました。式の最後には、下村専務よりMELジャパンの動向について紹介され、「最近、県・市といった行政からエコラベル所得に向けた支援の動きが多く見られており、今後、さらになる認知を得ていけるような取組みにしていきたい。」と述べられ終了しました。

### マリンエコラベル認証について

認証には『生産段階認証』と『流通加工段階認証』の2種類があります。

『生産段階認証』は、その漁業が資源と生態系に配慮したものであることを認証されたものです。

一方、『流通加工段階認証』は生産段階認証を受けた漁業によって漁獲された水産物が認証を受けていない他の水産物と混ざることなく加工・流通されることを認証するものです。

## 漁業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置の恒久化等を求める 「全国漁業代表者総決起集会」開催！

～東京・千代田区に全国から約1500人が集結～



会場には約1500人が集まった(写真提供：JF全漁連)



参加者によるシュプレヒコール(写真提供：JF全漁連)

JF全漁連(服部 郁弘会長)は11月9日(水)、東京・千代田区にある砂防会館で「漁業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置の恒久化等を求める全国漁業代表者総決起集会」を開催し、兵庫県の約40名の参加者も合わせ、全国から約1500人が参加しました。

集会では、まずJF全漁連 服部会長が「全国の漁業者は窮地に立たされている。この状況で燃油関連税制は最重要課題の一つである。水産業は国民への食料安定供給の役割のほか、環境保全等の多面的機能を有する。これが発揮できるよう免税措置の恒久化を求め、我々JFグループは断固として闘い抜く決意である。」と挨拶されました。

また、友誼団体を代表しJA全中 萬歳章会長から「農業でも103億円の損害となる。この恒久化措置が最後まで残るよう、TPP交渉参加反対とともに頑張りましょう」

と力強いメッセージがありました。

この後、大会決議が満場一致で採択され、続いて、臨席されている各党の国会議員から一様に「軽油引取税は、もともと道路特定財源であり、漁業用軽油が免税であるのは当然のこと。措置恒久化の実現のため力を尽くしたい。」旨の決意表明がありました。最後に全員で恒久化を実現させるシュプレヒコールで締めくくり、集会後、参加者は議員会館や国会周辺をデモ行進しました。



デモ行進する兵庫県参加者(写真提供：JF全漁連)

## 但馬地区のズワイガニ漁解禁！

日本海の冬の味覚、ズワイガニの漁が、11月6日(日)午前0時に解禁となりました。JF但馬、JF浜坂町の沖合底曳船52隻は解禁と同時に一斉に網を投入しました。

初競りも同日に行われ、浜は初水揚げに活気づきました。但馬地区全体で、水揚げ量は前年比77%、水揚金額は前年比86%という結果でしたが、JF但馬・柴山港のオスガニが11万2200円の最高値を付け、平均単価は前年を上回りました。

ズワイガニ漁も無事スタートしました。あとは豊漁を願うばかりです！



セコガニも次々に水揚げ



初競りの様子(JF浜坂町)

## NEWS

## 新たな鮮魚流通の姿を探して ～摂播地区漁青連の視察研修会～

### 摂津・播磨地区漁協青壮年部連合会

我が国水産物の最大消費地である首都圏の流通事情を探ると、摂播地区漁青連では東京都の中央卸売市場を中心に視察を行いました。9月6日（火）、参加者28名は姫路駅始発の新幹線に乗り一路、品川駅へ。水産庁 上田勝彦 情報技術企画官と合流し、最初の訪問先である大田市場へ向かいました。この大田市場は大田区の臨海部にあり、約40万㎡の広大な敷地と運輸の利便性が高く、首都圏のハブ市場の役割を担っている市場です。水産部はこの3月から荷受業者が大都魚類のみとなりましたが、築地にはない新たな鮮魚・活魚流通を目指し様々な販売を試みています。



朝に水揚げされ、昼に販売する方法も採用

朝に水揚げされた魚を昼に受けたり、活魚用巨大水槽を設置したりと、地域密着型の市場として良いものを次々に採用していく説明に、参加者は新たな鮮魚流通の可能性を見出していたようです。

また、ここではWeb上で「市場魚類図鑑」を公開されている“ぼうずこんにやく”こと藤原氏がゲスト参加し、場内を案内していただくサプライズもありました。

次の訪問先は、千葉県のパウアン郷土博物館でした。かつてパウアンは広大な干潟の豊かな海の恵みを受ける東京湾最大の漁師町でした。魚だけでなく二枚貝やノリの大産地として栄えたパウアンですが、昭和30年代、高度経済成長の波にのまれ、沿岸の漁業権全面放棄に追い込まれていくこととなります。



かつて賑わいを見せたパウアンの“浜”を再現

ここではパウアンの歴史や、当時の漁業を知る資料等の展示を見た後、上田氏の紹介で駆けつけてこられたロックバンド「漁巷」のボーカリスト 森田 釣竿（つりざお）氏の話聞くことが出来ました。森田氏の本職はパウアン市場内の魚屋の3代目。魚屋の傍ら、魚を食べてもらうためのPR方法として音楽活動を始めたことや、ブログでの情報発信によって様々な顧客を持つことができるようになった経緯などを紹介。「実はお客さんは魚屋との会話が欲しかった」と話す森田氏は本業のマグロから現在ではアカヤガラやアカマンボウ等のいわゆる「色もの」を超えた「ゲテもの」の販売も手掛け、そのセールストークや頻繁なネットへの情報提供が顧客獲得に繋がっていると話してくれました。



ロックバンド「漁巷」森田釣竿さん

様々な顧客を持つことができるようになった経緯などを紹介。「実はお客さんは魚屋との会話が欲しかった」と話す森田氏は本業のマグロから現在ではアカヤガラやアカマンボウ等のいわゆる「色もの」を超えた「ゲテもの」の販売も手掛け、そのセールストークや頻繁なネットへの情報提供が顧客獲得に繋がっていると話してくれました。



東京の胃袋を支える“築地”

2日目の9月7日（水）は早朝から東京都中央卸売市場（“築地市場”）に向かい、築地魚市場（株）の荷受業者「東市」から市場の動向等について説明を聞きました。日本最大の市場“築地”はさすがに活気に満ち、人・物ともに圧倒する数、加えて場外市場の観光客も平日の朝とは思えない数で圧倒される思いでした。ただ、目的の1つであったNPO法人「築地魚市場銀鱗会」との交流が果たせなかったのが少し残念なところでした。

2日間通して見た東京の鮮魚流通事情は、実際に現場で見聞きすることで、参加者はそれぞれ新しい発見があった充実した研修になりました。

## 淡路市で 「干しダコ教室」開催

～鈴木講師の体験記～  
(洲本農林水産振興事務所)

兵庫県漁業士会

8月31日に兵庫県漁業士会（JF育波浦 魚住幸市会長）の主催で淡路市立大町小学校において、4～6年生の45名を対象とした「おさかな教室」を開催しました。同活動は、漁業士会の魚食普及活動の一環で淡路市、JF兵庫漁連、水産技術センターに洲本農林水産振興事務所が加わり、淡路市内の小中学校で淡路の漁業に関する講義と干しダコ作りを体験してもらうもので、山田小学校、釜口小学校に続いて3年目の取組です。

今回はじめて講師を務めました。生きたタコを目の前にした生徒たちは興味津々で、私の一挙手一投足にすぐに反応が返ってきます。特に眉間の急所を千枚通しで突いてしめると体色がサーッと白く変わり、今までもがいて絡みついていたタコの腕がだらんとすると、生徒たちは「うわあ～」と驚いたり「きゃ～」と悲鳴をあげたり興奮状態でした。実を言うと当日の朝にこっそり練習をしたが上手くいかず、ド



楽しい一日が過ごせました



子供たちは興味津々

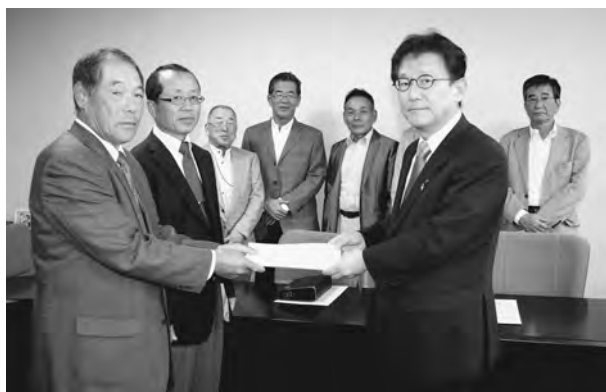
キドキの本番では一発で上手くしめられたことに本人が一番驚いていたということは生徒たちには秘密です。はじめは「気持ち悪い」とか「絶対無理」と騒ぎ、ヌルヌルした触感や吸盤が張り付くのを嫌がっていた子供たちですが、いつの間にか夢中になり、最後には「楽しかった」とか「またやってみよう」とかの声がたくさん聞かれました。

「百聞は一見に如かず、百見は一験に如かず」などと言われますが、今回の体験から生徒ひとりひとりが、タコ飯の試食だけで終わるよりも多くのことを感じ、考える機会になったのではないのでしょうか。また、ご協力頂いた教諭方の評判も良く、新聞等でも多数報道してもらい漁業士会活動のみならず私達の普及活動の絶好のPRの場ともなりました。子供達に魚に興味をもってもらうためには、このような地道な活動の積み重ねが欠かせません。漁業士会の皆さんの活動への理解が広がり、この取組が結実することを切に願います。

(洲本農林水産振興事務所 鈴木雅巳)

## 淡路市長へ「豊かな海づくりに係る要望書」提出 ～淡路市での下水道管理運転の実現を目指す～

10月13日（木）、淡路市漁業振興協議会（中田 勝会長：JF津名）は淡路市 門 康彦市長のもとを訪れ、同市の下水道管理運転の実施や、海底耕耘・かいぼり（池干し）など、海域への栄養塩供給の取組みへの理解と協力を求めました。



門市長に要望書を手渡す中田会長

同協議会では、近年、海の貧栄養化現象はノリ養殖における色落ち現象など、漁獲量減少に大きく影響しており、漁業者の行う海底

耕耘やかいぼり等の取組みだけで豊かな海を取り戻すのは難しいと考えており、同市が管理する下水処理場にて、排水基準内で窒素排出量を増加させる管理運転の実施を要望するために、市内8JFの組合長らが淡路市役所を訪れました。

要望書は、中田会長が読み上げた後、門市長へ手渡され、「他地区でも同じ取組みがなされていることは聞いており、地元水産業のためにも出来るだけ検討したい。」と、行政としても前向きに検討を進めていく旨の発言がありました。

県内で広がりを見せている行政による「下水道管理運転」。今後、豊かな海の実現を目指していくなかで注目される取り組みです。





# 淡路水交会の「漁業者の森づくり」 ～淡路市立学習小学校児童も参加しての植樹活動～

(社)淡路水交会

社団法人 淡路水交会（前田吉計会長）が主催する「漁業者の森づくり」が、11月8日（火）淡路市の東浦サンパークで行われました。この活動は、アオリイカの産卵床となるバベ（ウバメガシ）の枝や間伐材を使った“柴漬け”の木を育てるため、また、漁業者と一般県民が力をあわせて豊かな海の再生に向けた“森づくり”を行うことで、環境保全と地域への貢献を図ろうという趣旨で始まり、今年で3年目となります。

作業当日は天気にも恵まれ、集合場所の東浦サンパーク 多目的グラウンドには島内20JF役職員や漁青連、女性



苗木をみんなで運びます

連のほか、行政や系統団体、さらに淡路市立学習小学校5年生児童の約50名が加わった総勢200名が集まりました。前田



5年生の皆さんも頑張りました

会長の挨拶と植樹手順の説明の後、参加者は苗木と土嚢に入った土を次々に運び込み、用意した600本のバベ、ヤマモモ、アキニシを植樹しました。場所はグラウンド横の傾斜地で、急斜面の足場の悪いところもあったものの、約1時間で植樹作業は終了しました。

作業終了後にはアオリイカの天ぷらがふるまわれ、参加者は皆、揚げたてのアオリイカを美味しく食べていました。

豊かな海の再生に向けて、また、森・川・海をつなぐこの「森づくり」事業は、これからも淡路の各地で展開されます。



豊かな海への願いを込めて…



## 淡路市のため池を“かいぼり” ～JF森・仮屋の取り組み～

JF森（森 義政組合長）とJF仮屋（岡田光司組合長）では、平成20年より淡路市内のため池を“かいぼり”することで、海に栄養塩を供給する取り組みを行っており、今年10月28日（金）、淡路市河内のため池「路谷池」で両JFから約60名が参加し行われました。

この「路谷池」は、地元の人に聞くと「約200年前に作られた池で、“かいぼり”はよく行われていたが、農家の高齢化による人手不足で、ここ7～8年は行っていません。」とのこと

でした。また、貯水量11万トン、奥行約300メートル、幅約150メートルの大きな池であるので農業用水を貯めておくほか、過去の大雨においても、水を一時的に貯



深く大きな「路谷池」



大量の砂も堆積。その上に泥が層を作っています。

めておく能力が高く「防災の面からも“かいぼり”はありがたい。」とのことでした。

作業は、水が抜かれた池の底に溜まった泥を、ポンプによる放水とスコップ等を使って取り除き、泥を含んだ水は勢いよく水門から下流へと流れました。

この“かいぼり”の取り組みは今年で4回目となりました。また、昨年の明石地区に続き、淡路の他の地域でも行う予定があり、“豊かな海”を取り戻す運動は今後さらなる広がりを見せていくことになるでしょう。

池の底にはたくさんのコイ・フナが…



ポンプによる放水作業



## JF・JAグループ兵庫各団体トップと兵庫県知事との意見交換会を開催

去る10月17日(月)神戸市内のホテルにおいてJFグループ兵庫は、JAと合同で、今後の農林水産業の振興施策に関して、井戸知事、吉本副知事を交えて意見交換会を開催しました。県行政のトップとJF・JAとの意見交換会は、昨年につづき2回目の開催となります。

JFグループからは、JF兵庫漁連 山田 隆義会長が、先ず、先日開催した決起大会のお礼を述べたうえで「漁業経営において、軽油引取税の免税恒久化は、水産業が食料供給産業として役割を果たすうえで、絶対必要な措置である。」と強調、「今後、一次産業の振興を図るため行政・JF・JAの連携強化が重要。」とも述べられました。

JA兵庫中央会 石田 正会長は、「TPP交渉参加の是非について、農業が経済効率だけでは捉えきれない多面的な機能を有し、県民の生命と生活の根

源として深く関わっていることを再認識する必要がある。」と訴えました。また、来年11月に神戸で開催されるICAアジア太平洋地域総会への協力を呼びかけました。

これを受けて、井戸知事は「漁業用燃油の免税は是非必要であるし、TPP問題は、農・漁業者の不安を取り除くことが先決である。また、大都市を抱える兵庫の農林水産業の課題として、地産地消を活用強化し、沼島のアジや岩津ネギのような“ブランド化”への取組み強化が必要であり、県としてはJF・JAと十分連携して取り組みたい。」と述べられました。

この意見交換会は、井戸知事、吉本副知事ほか、出席の県農政環境部の幹部および、JF・JA各団体のトップがTPP問題を共有するなど、有意義な意見交換会となりました。



## 「火事だ!!」 —兵庫県水産会館で消防避難訓練—



消火器に体験実習



家庭での火災への対処も学んだ

10月5日(水)、兵庫県水産会館に勤務する職員の防火・防災の意識を高め、緊急時に対する備えや、消火設備等の知識を高める目的で消防避難訓練が行われ、今年で2回目となります。

午後2時に館内に火災警報装置のベルの音が鳴り響きわたると、入居している団体の消防担当職員が自分の役割を果たすべく走り、速やかな避難誘導がなされました。

避難訓練の後は、水消火器を使った実習や、明石市消防署員から講義があり、参加した約50名は皆、真剣に話を聞き、普段から防災意識を持ち、慌てず行動することの重要性を再確認されていたようです。

## 兵庫県農林漁業祭に出店 ～売上金を震災義捐金に～

10月22日(土)、23日(日)に明石市内にて「第33回兵庫県民農林漁業祭」が開かれ、2日間で延べ約3万人の人出で賑わうなか、水産関係では、JF、海区団体、JF兵庫

漁連、各地区漁青連・女性連が出店しました。

「ガザミふやそう会」も出店し、収益金を東日本大震災への義捐金とすることとして「漁師のガザミ汁」を販売しました。その結果、合計で11万9,300円の売り上げがあり、全額を東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部へ寄託しました。

また、但馬地区漁青連もニギスを販売し、売上金10,000円を同対策本部へ寄託しました。





# 大輪田塾だより

## ～「平成23年度 大輪田塾修了式ならびに入塾式」開催～

去る10月25日（火）、大輪田塾では、修了式ならびに入塾式を兵庫県水産会館で開催しました。本年度の修了生（5期生）は5名、また、入塾する7期生は6名でした。

修了式では、5名の修了生が山田塾長から修了証書を授与されたあと、それぞれ「決意の言葉」として力強く抱負や思いを述べました。続いて、在塾生から修了生への「送る言葉」が6期生の仲野精二さん（JF津名）から述べられ、修了生は決意を新たに卒塾しました。

続く入塾式では、入塾生が1人ずつ名前を呼ばれた後、代表の東根大介さん（JF淡路島岩屋）から「誓いの言葉」が塾長に対して力強く述べられました。次に、6期生の小林典広さん（JF坊勢）から「歓迎の言葉」が贈られ、入塾生の皆さんは緊張した面持ちで聞いていました。

山田塾長は訓辞のなかで「修了生は、当塾で得た人との繋がりを大切にしてください。卒塾されてからが大事であり、これからは研鑽を積んでほしい。」と述べられ、新入生には、「今、漁業界は様々な問題を抱えているが、将来の漁業は自分たちで作るのだという気構えで頑張ってもらいたい。」と期待を寄せられました。



6期生小林さんから「歓迎の言葉」



入塾生の皆さん（左から、上田章太さん、東根大介さん、古市琢郎さん、福島寛之さん、山崎栄祐さん）黒田大介さんは出漁中のため欠席。

### 修了生の紹介

氏名	所属	漁業種類
大角 生馬	J F 坊勢	小型底曳網
福井 佐敏	J F 姫路市	小型底曳網
富山 和彦	J F 一宮町	小型底曳網
熊本 直和	J F 浜坂町	漁協職員
渡部 恭広	J F 兵庫漁連	系統団体職員

### 入塾生の紹介

氏名	所属	漁業種類
上田 章太	J F 坊勢	漁協職員
東根 大介	J F 淡路島岩屋	船曳網
古市 琢郎	J F 淡路島岩屋	漁協職員
福島 寛之	J F 五色町	延べ縄、タコつぼ
山崎 栄祐	J F 五色町	漁協職員
黒田 大介	J F 但馬	沖合底曳網



6期生仲野さんの「送る言葉」



入塾生を代表して東根さんから「誓いの言葉」

また、来賓を代表して兵庫県水産課 村口重治資源増殖室長と、系統代表として兵庫県漁業共済組合 上村広一組合長理事から祝辞を頂きました。

式終了後の記念講義は、関西学院大学文学部長で大輪田塾講師団顧問・運営委員の田和正孝教授による「伝統漁法 石干見（いしひび）の再生と活用」が行われました。入塾生にとっては初めての講義であり、塾生は皆、熱心にメモを取っていました。

修了生の皆様の今後益々のご活躍と、入塾生のこれからの奮闘に期待します。



修了生の記念撮影（修了生は最前列、左から渡部さん、福井さん、（山田塾長）、大角さん、富山さん、熊本さん）

## 震災復興に「水産業特区構想」!?

# 効率性の追求だけで漁業は成り立たない 自主調整機能が歴史を支えてきた

### 経済情報誌WEDGEが特集記事を掲載

東日本大震災で、宮城、岩手など太平洋岸の漁業は壊滅的打撃を受け、その復興議論の中で突然に『水産業特区構想』が急浮上し、宮城県の漁業者は勿論、全国の漁業者は、漁業の根幹を脅かす一方的な論理だとして絶対反対を掲げ抗議を続けている。そんな折、先月のビジネス誌WEDGEに、漁業者の意見を真っ向から否定する記事が掲載された。先の宮城県知事の『特区構想』は決して対岸の火事にあらずを再認識

した。記事の中身にいちいち反論するものではないが、記事の一般への影響は大きい。何故ここまで批判されるのか？改めて、我々は特集記事を謙虚に受け止め、漁業の本質をしっかりと世論に訴える情報発信の必要性を痛感した。

WEDGEは特にトップマネジメントに人気の経済情報誌で、記事は“震災で露呈 時代遅れの漁業権”という強烈なタイトルにはじまる4部構成の特集もので、その巻頭を飾る記事紹介記事は下掲の通り。

### WEDGE巻頭文を紹介

## “震災で露呈 時代遅れの漁業権”

**漁協による漁業権の独占が健全な漁業の発展を阻害している。  
その実態を明らかにする！**

東日本大震災で東北地方太平洋沿岸の漁業は壊滅的打撃を受けた。最大の被害を受けた宮城県が掲げるのは『水産業特区構想』。漁業権の開放で民間企業の参入を促し、復興を後押しすることをねらう。

構想に反対するのが、漁業権を事実上独占してきた漁協だ。「民間企業が漁業に参入すれば、浜の規律が乱れる」。宮城県漁業の幹部はそう主張するが、被災地取材すると現場の漁業者からは特区構想を支持する意見が少なくない。「いまの漁協は漁業権を既得権益化して、変革への意欲を持っていない」。漁業者のひとりはこのよう。

本特集では、漁協による漁業権の独占がもはや健全な漁業の発展を阻害している実態を明らかにする。…と前振りし、4部構成の特

集記事の内容に触れている。

第1部「震災前から訪れていた危機」として、宮城県の特区構想に真っ向から反対する漁協。しかし、日本漁業は抜本的な改革無くして立ち行かない。第2部「海と魚は漁協だけのものか」漁業の民主化で漁協が独占してきた漁業権。その弊害が明らかになってきたのではないかと。第3部「日本の漁業 復活の処方箋」漁業権の開放に加え、大規模化・集約を進める。資源管理の見直しも急務。いま手を打たねば魚はいなくなる。第4部「『水産業復興特区』はなぜ必要か—村井嘉浩・宮城県知事に聞く」村井知事に編集部がインタビュー。特区構想は日本の漁業の新しいモデルとなる。

(WEDGE10月号から原文のまま転載)

掲載記事の前振り部分を原文のまま転載させていただいたが、漁業関係者は内容に異論があるだろう。また、10月18日、宮城県議会は構想撤回を求める請願を不採択しており、漁業界の反発は大きい。

宮城県村井知事が水産被災地の復興を促進するためとして、唐突に「水産業復興特区」構想を表明されたのは今年の5月。知事は「いま、日本の漁業は様々な要因で先細りが懸念され、今回の被災で県内でも3割の漁業者が廃業するとの情報もある。仮に元通りに復旧するとしても、漁業者が新たに借金をして事業を再開することは極めて厳しい状況が伺える」と前置きして「そこで水産業を大規模化・集約すると共に、民間企業も『漁業権』を取得しやすいように規制を緩和し、生産・加工・販売面で漁業者がより民間資金の力を得やすくなる環境を整える。単に復興財源の確保だけが狙いではなく、漁業が直面する危機的な状況を打開する糸口をつくるのが真の狙い」と説明。また、「日本の漁業が将来直面するだろう課題に、その解決策のモデルを宮城県から示すものだ」という。

### **日本の制度が漁業者の乱獲を助長？ 漁業権の開放と資源管理がカギ？ ～厳しい論調が続く～**

今回の特集記事は、村井知事の構想表明を核にその賛否を問う構成だが、特区構想に反対するJF宮城船渡専務の意見より構想を支持する論調が大方を占める。高木提言で知られる元農林水産省事務次官高木勇樹氏、政策研究大学院小松正之教授がこれまで同様、漁業権開放論、水産資源＝国民の資源論を展開し「既得権益を手放さない漁協こそ改革が必要」との論調を繰り返す。さらに熱海市の定置網漁業会社代表ら

は「漁協に漁業権行使料等高い金を支払っているが、金の使途が不透明」と。又、福岡有明海でのり養殖の小間貸し問題、大船渡市の漁業者の漁協に対する不満の声。ノルウェーの資源管理方式を例に「日本の制度は漁業者の乱獲を助長させている」とか、「(漁業の) 効率性の面から漁業権を議論すべき」という大和総研原田泰顧問の意見等々、様々な角度から問題を投げかけられている。しかし、一般読者がこの記事を目にすれば、漁業社会は極めて閉鎖的で、漁業権を既得権益化して組織防衛を図っているという一方的な解釈を誘導されかねない。

### **蛋白食料の安定供給が漁業の使命 漁業は“効率性の追求”だけか？ 漁業の本質論をもっとアピール**

四囲を海に囲まれた我が国は、漁業を通じて国民蛋白食料を供給するとともに、豊かな水産物は世界に誇る固有の食文化を創造してきた。また、水産業・漁村は国民蛋白の安定供給という本来の機能のほか、物質循環の補完機能や、環境保全、生態系保全、生命財産保全、防災・救援、保養・交流・教育など多面的な機能を有し、国民生活に貢献してきた。その経済評価額は約10兆9,600億円（'04年三菱総研試算）といわれている。

これら歴史の陰には漁業社会が法の遵守だけでなく、漁業者の自主的な海の調整機能がしっかり発揮されてきたという現実があり、国民・消費者との相互信頼が維持されてきた結果がある。とりわけ、漁業は農林業と異なり海に線引きが無い。そのため海図上の線引きと漁業者の自主協議による漁業調整で秩序が維持されている。このような例は他産業にない。

漁業制度の歴史は701年飛鳥時代に制定され

た「大宝律令」が最初といわれ、同法雑令に「山川藪沢の利は、公私之を共にす」とある。これは海面、河川、湖沼などにおいて万民による自由使用の原則、特定人に対する独占的な漁場利用の権利は認めずと解釈されており、江戸時代には漁具・漁法の発達に伴い、漁場紛争を避けるため漁場利用配分が行われている。藩主による漁場の領有と藩主への貢租納付を前提に「磯獵は地付き、根付き次第、沖は入会い」とされ、「磯」については沿岸漁村集落がその地先水面を占有管理する。「磯」の沖合は入会いとして周辺集落の漁民に開放するという幕府の施政がある。これが今日の漁業権、入漁権の原型となっている。

また、明治8年、明治政府は海面官有及び借区制を發布し海面利用の多様化を図ろうとしたが、漁場争奪の紛争が続出し、統制力もないまま1年を経ずして制度を全面撤回している。新たな太政官通達では、旧来の民と地方自治による漁場関係を堅持することとし、旧来の貢租関係をそのまま地方新税にしたという。

現行漁業権制度はもとより各区域の漁業諸規則でも「すべて旧慣によるべし」との精神が生きている。漁業を生業とする世界では、漁場争奪の紛争はいつの時代、何処の海でも起りえるもので、広くは国の威信に係る領海紛争から地先の海面も又しかり。これら紛争の解決には、法律の枠外で漁業者間の協議調整という自主機能が働いてきたことは歴史が示すとおりであり、取締機関でも漁業者間の自主協定を優先認知してきた経緯もある。

### **“線引きのない海” 自主調整機能の 発揮で秩序が保たれてきた歴史認識を**

漁業社会は大宝律令における万民による自由

使用の原則のもと、国の施政もその歴史をふまえて“線引きのない海、移動活発な魚類を円滑に調整管理できる”ことを前提に漁協に漁業権管理を託してきたが、今日に至るも何ら混乱はない。言い換えれば、線引きの無い海で、一つの管理水域内に同等の格付けをもつ管理権者が複数に存在すれば、漁場争奪の紛争が起こることは当然予測される。この折、漁業者間の自主調整も機能せず、法の建前論が先行する行政にも紛争調整は大きな負担となるだろう。他方、記事にもあるが漁業権を既得権益化し、これを盾に権利の私物化を図っているような漁協があるとすれば、漁協本来の機能を果たすよう改めてゆかねばならない。

いずれにしても海洋の適正な利用配分と資源管理は、外洋では領土統治・国家主権の保持という領海の線引きがあり、沿岸では、武家社会の漁場の領有と漁村集落による地先水面の管理で円滑に漁業調整が行われたように、単に合理性、経済性、効率性の視点だけで海は管理し得ない。有限資源の適正配分を考えるなら、漁業権管理を複数の者に与えるなど制度の緩和は漁場争奪と浜の混乱を招くだけだろう。

### **企業の論理だけで生産活動は不可 漁業調整にも関わりが…。 漁協を否定して網元制度の復活か？**

今回の特区構想に全面的に対決姿勢を強めているのがJF宮城の皆さんだ。記事のなかでは、県漁協の組合員も一枚岩ではないような表現もあるが、業種別にまた個々の立場でみていけば意見の違う人も出てくるだろう。仲間として、漁協幹部の皆さんのご苦勞に同情する。

企業と漁業者が共同出資して会社を設立する。漁業者も経営者に参画し議決権もある。漁

業者のノウハウと民間企業の資金力を融合させ漁業振興を図るといふ。創案は農業での成功事例かららしいが、農業と違い漁業は気象や水環境の影響に左右され、ハウス栽培のように人的コントロールなど海では通用しない。

当然、海のごとは漁師に任せ、加工や流通などは企業の人に関わる。海からの生産が順調な時は良いが、環境事情で加工場を動かす原材料がなければ、陸の不稼働コストは会社にかかってくる。企業戦略からいえば、もし、加工場が動かないなら製品原材料を外部に求めるだろう。勿論、コストも上がる。漁業者は、そのツケの重圧と自社製品の生産に貢献できない精神的苦痛に耐えられるのか？。

農業は土地があり、営農施設への投資も異常気象はともかく総じて人の管理が行き渡りやすい。しかし、海では区画漁業権があっても海そのものは繋がっており、操業上でも他の漁業者との調整問題は避けて通れない。経営者たる漁業者は出資者から操業の効率化や生産性の向上、円滑化を求められるだろうが、沖では刈取時期、作業一つでも単独行を許さない自主協定などもある。漁業者と企業経営者、何れも利益を上げ事業の発展をめざす点は共通していても浜の規範や自主協定など本質的な違いも多々ある。

企業は必要な投資に対し見返りを求める。ひたすら利潤を追求し、投下資本の回収が必須の要件であり、目先の採算はもとより将来に不安の芽があれば早々に資金を引き上げ撤退するのは当然の動き。しかし、漁業者は企業の資金協力を断ち切られたら企業任せできた会社運営に限界をみる。仮に会社を解散し、負債を抱えたとしても帰るところは漁業しかなく漁業所得で返済というのが現実だろう。また、企業からの

資本金や資金に依存すると、かつての網元制度のように漁家の全てを網元に管理統制されることにもなり、漁業者の自主自立力は削がれる。やはり、会社経営のノウハウをもたない漁業者は美味しい話に惑わされず、漁協を中心に漁業の再構築を図るのが本来の姿だろう。漁協との連携で加工業者の育成と資本力強化を図り、浜の特長を生かした地元経済の振興を考えたらと思う。

### **自主調整機能で農業とは異質の漁場管理制度**

現代でも、漁業社会は法令と歴史経緯をふまえた慣行例、そして民間調整機能の組み合わせにより、漁業秩序が維持され、資源管理も円滑に進められている。一般社会からは歴史や伝統、慣例を重視する漁業界は閉鎖的な別世界と映るかもしれないが、生産活動や制度の仕組みは海に生命の全てを依存してきた海洋民族の歴史そのものであり、我が国固有のもので世界に例はない。世界に冠たる日本の海の管理手法に欧米の方策や海面利用方法を安易に導入することは出来ない。歴史は常に動くというが、漁業が果たしてきた国民蛋白食料の安定供給という本来の機能に加え、環境保全、海の防人など多面的機能をふまえると、歴史を軽々に塗り替えることなど考えられない。

集落単位の漁場管理から発展した漁業権・漁業許可制度は、海洋立国で経済成長した日本が心血を注ぎ、英知を集めて作り上げた世界に誇る制度であることを忘れてはならない。他方、優れた統治能力を有する我が国の漁業協同組合組織であるが、社会的信頼の保持は絶対要件であり、いつの時代にも常に外部の声に耳を傾ける謙虚な姿勢は続けたいものだ。 (U/T)

# 資産形成と万が一に 備えた新しい保障！



お宝ポイントその①

## 余裕資金等を活用した確実な貯蓄ができます

住宅の購入、お子さまの教育や豊かなセカンドライフ等に備え、満期共済金・余裕資金などを貯蓄感覚でしっかりと育てつつ、満期時にはご加入時にお示した満期共済金を確実に受け取りすることができます。

## 万が一の場合もしっかり保障します

資産形成をしながら、共済期間中の万が一の場合も保障します。さらに、災害による万が一の場合や海難事故による万が一の場合には共済金が上乗せされるなど、浜の生命共済チョコーならではの特長も兼ね備えています。



お宝ポイントその②



お宝ポイントその③

## 簡単な手続きで最高84歳までご加入できます

ご加入の際は簡単な告知のみの手続きでご加入いただけます。6歳から84歳まで（10年満期の場合は80歳まで）の方で、次の項目に該当しなければご加入いただけます。

- 現在病気や外傷で安静療養中ですか
- 今後入院または手術の予定がありますか

### ☎ ご契約例 一時払共済掛金200万円の場合

共済期間 6年	一時払共済掛金 2,000,000円	▶	満期共済金 2,055,720円 (満期時利回り 0.46%)
共済期間 10年	一時払共済掛金 2,000,000円	▶	満期共済金 2,130,900円 (満期時利回り0.65%)



- 上記は、あくまでご契約例です。ご加入時の予定利率に応じて、死亡共済金および満期共済金は変わりますので、ご加入時に満期共済金の額など必ずご確認ください。
- お受取りになる満期共済金は性別、年齢にかかわらず同一となります。共済期間中の死亡共済金の額については組合におたずねください。
- 早期にご解約された場合は、お支払いする解約返戻金の額は、お申込みいただいた共済掛金を下回るときがあります。
- 満期時利回りは、一時払共済掛金に対する満期共済金の増加割合を共済期間で割ることにより算出した1年あたりの利回り（単利）のことです。

上記はチョコー（普通厚生共済）・一時払養老共済の概要とご契約例を記載したものですので、ご契約のご検討の際は、組合よりお渡りする「リーフレット」や「加入設計書」を必ずご確認ください。ご契約の際は、重要な事項が記載されている「契約概要」および「注意喚起情報」を一読いただくとともに、「ご契約のしおり・共済約款」を必ずご覧ください。

詳しくはお近くの組合へ JF共済 <http://www.kyosuioren.or.jp/>

## JA兵庫六甲 三輪さつき会館オープン

JA兵庫六甲 三輪さつき会館（JA葬祭会館）が9月13日にオープンした。JA兵庫六甲では、組合員・利用者、地域住民に幅広い事業を提供するために、100%出資子会社である（株）ジェイエイアクトと連携し、葬祭事業をおこなっている。

これまで同JAの葬祭会館は、JAやすらぎセンター（神戸市西区）を設置していたが、2つ目の会館として「三輪さつき会館」を設置することにより、幅広い組合員・地域住民に利用してもらう目的がある。三輪さつき会館には通夜・葬儀から法要、遺族の宿泊施設や会食室などの設備も完備。これまで以上に組合員・地域住民の多様なニーズに合わせたサービスを提供する。

9月7日には竣工式、9月10日・11日には内覧会が実施され、組合員や地域住民など多くの来館があった。また、三輪さつき会館オープンに伴い、旧来のJA葬祭センター六甲（神戸市北区道場町）はJA三輪さつきセンターとして移転統合する。さらに、オープンに併せ、JA葬祭ご利用特典付き【さつき】定期積金の取扱も開始するなど、事業間連携もおこなっている。



JA三輪さつきセンター  
三田市三輪1-7-19/TEL: 079-563-3031

## 2011年度 「第1回 災害対策委員会」 を開催しました

8月24日（水）、兵庫県民会館にて、「2011年度第1回災害対策委員会」を開催しました。

冒頭に、兵庫県生活協同組合連合会・大西専務理事の挨拶のあと、兵庫県健康福祉部生活消費局消費生活課課長補佐・木村晶子氏の挨拶に続き、「来るべき東南海・南海地震の対策について」をテーマに、兵庫県企画県民部防災企画局防災計画課防災計画係・増井政道氏よりお話をいただきました。

内閣府が想定する「発生が懸念される大規模地震」のデータから、兵庫県の東南海・南海地震発生時の津波被害の想定調査結果と対策や、住宅の耐震化の重要性、住宅再建への公助・共助の仕組みづくりとして兵庫県がすすめている住宅再建制度（フェニックス共済）について、また、大震災の教訓の継承・発展のために設置されている「防災未来館」のリニューアルオープンなどのお話がありました。

その後、出席者より東日本大震災支援の取り組みについての報告と、コープこうべ総合ネットワーク推進室より「応急生活物資の確保状況」について報告がありました。

委員会の協議事項として、①応急生活物資についての協定の見直しについて、②2011年度兵協連大規模災害対策図上演習について、協議をおこないました。さらに、確認事項として、①緊急時の連絡先のメンテナンス、②許可済みの緊急通行車両のメンテナンス、③MCA無線の配備、④2011年度兵庫県生協大会の企画（兵協連会員生協の東日本大震災被災地支援の取り組みなど）、⑤近畿地区各生協の「2011年度大規模災害対策の重点課題・計画」について確認をしました。



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 似せ絵と贋作

◆棟方志功の版画は、大胆で自由奔放な作風から偽作を作り易いという。版木に材質の軟らかい朴(ホウ)を使うため、刷る程に摩滅してゆく。版画は部数が何十枚とあるため、模倣が比較的簡単になされる。需要が供給を上回った時に贋作品が生れる。これが画商やコレクターの手元に納まっている限り問題はないが、それが公に現れた時、衆目を集めて大騒ぎへ発展する。「模写」という描画技法は、技術習得の最良手段であり、洋の東西を問わず盛んに行う。所蔵館の許しを得て、真作と紛れるのを避け異なるサイズに描くのが通常である。

◆書道では双鉤法という書写法を使う。別名を籠写しという通り、名書家の作品に薄紙を載せて輪郭を写し取る。此の籠書きに墨を充填すれば、直筆と見分けがつかない。古人の書法を会得する学習法だが、贋作づくりに悪用される。「王を買って羊を得れば、望むところを失せず」と古諺にいう。王献之の書と思って買った偽物でも、羊敬元の作なら満足すべ



「運河の浸木」

きだという意である。羊敬元は王献之の弟子で師の筆墨と酷似した書で見誤っても当然、偽作ながらも満足できる。真筆品は、そう簡単に入手出来ず、名筆には贋作が付きもの。

◆一九四五年、オーストリアの僻村で、ナチス首脳が被占領国から略奪して隠匿していた大量の美術品が見つかった。それはヒトラーのコレクションになる筈のもので、絵画の中で寡作で知られるフェルメールの作品が3点もあり世間を驚かせた。彼の絵は、オランダの国家的財産として国外流出が厳しく管理されており、その内の一点の売買に関係したとして画家一人が逮捕される。黙秘のあと6週間目に「あれは私が描いた贋作」と自白する。同世紀の無名画家の絵を買い、全てを削り落したカンバスを使い、削った絵の具を溶かして描く。何度も丸めてヒビを拵え、墨汁を擦り込み古色を出す。17世紀の画家を完璧に真似て、専門家をも欺く出来栄で、その完成度に誰もが舌を巻いた。

◆世界三大肖像画家はベラスケス・レンブラント・写楽だそうだ。彼らは沢山の人物像を描き、写実の旨さで知られる。以前、写楽の役者絵を模写した事があり、大胆なデフォルメに感心させられた。鎌倉時代に描かれた「小野道風像」を肖像画の傑作という。大きく口を開けた馬面の異様な姿に描いてあるそうだ。肖像画は本人に似ているかで評価が決まる。職場の同僚全員を似顔絵にした事があったが、特徴を描くのには気が遣った。強調すると俗悪になりモデルが傷つくし、上品に過ぎると面白みに欠ける。程々にするため四苦八苦したものだ。

### 奇跡のホワイトライオン世界猛獣ショー

## 世界最大級の大スペクタクル 木下大サーカス

～姫路公演～ 12/23 (金) ～2/28 (火)

姫路市 大手前公園 特設会場

平日招待券 10組20名様プレゼント

郵便番号、住所、氏名、電話番号と「木下大サーカス招待券希望」と記入の上、下記の連絡先までお送り下さい。

連絡先(財)兵庫県水産振興基金

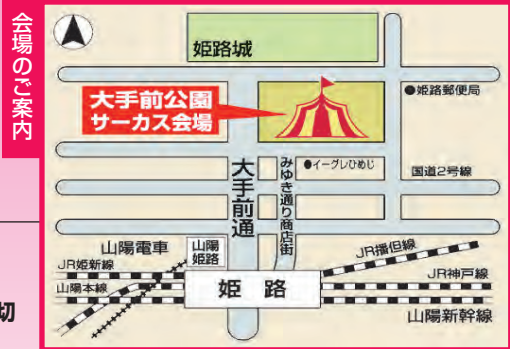
メールアドレス: h.sui.kikin2@triton.ocn.ne.jp

FAX: 078-919-1336 振興基金: 西詰まで 12/9(金) 締切

※当選は発送をもってかえさせていただきます。

「常に最高であり続ける誇り」・・・創業者の心を継承して1世紀。木下サーカスが伝統のなかで磨きあげ、鍛えあげてきた名人芸と、世界一流の海外アーティストたちが競演するダイナミックなスペクタクルショー。興奮と感動に満ちた栄光百年をこえた記念ツアー、「木下大サーカス」5年ぶりの姫路公演です。

子供たちに楽しい夢を、若者にバーチャルではない迫真のライブ芸の魅力を、大人の方たちには去りし日の想い出を!お子様の感動情操教育の場として最適です。世代を超えて共感をわかち合えるひとときを、ぜひおそろいでお楽しみください。



### 表紙の言葉



### 「第31回全国豊かな海づくり大会」

今回の全国豊かな海づくり大会では、兵庫の漁業者や行政も一体となったイカナゴ資源管理の取組みが高く評価され、今回、資源管理型漁業部門 環境大臣賞を受賞しました。この取組みによって、資源保護のみならず、統一解禁日設定や、体長制限など効率よく資源を利用することで、魚価向上、生態系の維持につながってきました。また、イカナゴのくぎ煮をめぐる様々な取り組みは地域産業全体に大きな経済効果を与えています。これからも地域の大切な資源である「イカナゴ」が効率的に利用され、将来にわたり漁業者、地域へ潤いをもたらすことを期待します。(写真提供: JF全漁連)